



小林の農畜産物の魅力を伝える  
女性の力でまちを元気に



**Photo1** 試作品の「こばやしの宝物クッキー」。お茶やトマトなどを使い鮮やかな色合いにしている。 **2** 市役所前で初めて開催した「マママルシェ」。子どもから大人まで盛況だった。 **3** 「イタリアンコロッケ」。宮崎和牛やチーズなどをふんだんに使用。 **4** アイデアがまとまると調理に。長年培ってきた料理はお手のもの。 **5** 野菜パウダー。こばやしマママンの商品としてOgawa Farmで販売。また、裏面ははがきになっており、パウダーとともにメッセージを送ることができる。(問：Ogawa farm Tel 27-3814) **6** 月1回の定例会議の様子。それぞれが作った試作品を持ち寄ることも。

# 小林人

こばやしびと  
Vol.53

人口減少が社会問題の今、女性の力はますます必要になっていく。小さなことからコツコツと取り組む彼女たちの姿は、同じ女性たちにも勇気を与えている。そしてその力は、このまちをもっと元気にしていく原動力となるだろう。

「こばやしマママン」。農家を中心とした女性およそ20人からなるグループで平成26年2月に発足。目指すのは、自分たちが育てている農畜産物を加工し、販売する「6次産業化」。月1回、定例会議を行い、それぞれのアイデアを繋ぎ合わせ、魅力的な商品づくりに取り組んでいる。

6次産業化は簡単なことではない。1つの農家だけでは、本業とのバランスや加工場の設置などの課題がある。お茶を栽培する川原美智子さんは、「今まで、6次産業化をしたとは思っていたが踏み出せなかった。このグループのおかげで夢が叶いそう」と話す。

また、彼女たちの作る商品の魅力は、「主婦ならではの工夫。試作品の「こばやしの宝物クッキー」は、粉末にした野菜を使用する。「野菜嫌いの子どもでも美味しく食べてもらえれば」と考案者の瀬戸山正子さんは話す。「人の力」を生かして農畜産物をより魅力的にしているのだ。

8月と10月には、市内で「マママルシェ」を開催し、農作物の販売や試作品の振る舞いを行った。そこに訪れたお客さんとの会話の中から、自分たちの今ある商品の課題などを探った。笑顔とコミュニケーション能力の高さは女性ならではの。梨・ぶどうを栽培する小原みほさんは「農作物の美味しい調理法などお客さんから学ぶこともある。新たな発見は、とても楽しい」と笑顔を見せる。

食と水の宝庫「小林市」。雄大な自然の中で育った、小林の農畜産物の魅力を発信しようとしている人たちがいる。

女性の活力推進グループ  
**こばやしマママン**

食と水の宝庫「小林市」。雄大な自然の中で育った、小林の農畜産物の魅力を発信しようとしている人たちがいる。

女性の活力推進グループ「こばやしマママン」。農家を中心とした女性およそ20人からなるグループで平成26年2月に発足。目指すのは、自分たちが育てている農畜産物を加工し、販売する「6次産業化」。月1回、定例会議を行い、それぞれのアイデアを繋ぎ合わせ、魅力的な商品づくりに取り組んでいる。

6次産業化は簡単なことではない。1つの農家だけでは、本業とのバランスや加工場の設置などの課題がある。お茶を栽培する川原美智子さんは、「今まで、6次産業化をしたとは思っていたが踏み出せなかった。このグループのおかげで夢が叶いそう」と話す。

また、彼女たちの作る商品の魅力は、「主婦ならではの工夫。試作品の「こばやしの宝物クッキー」は、